

環境情報検証報告書

VAIO株式会社 御中

1. 検証の対象

一般財団法人日本品質保証機構(以下、「当機構」という。)は、VAIO 株式会社が作成した「FY25 算定報告書」(以下、「算定報告書」という。)に記載された 2025 年度の温室効果ガス(GHG)排出量、エネルギー使用量および水使用量が、同社により作成された「GHG 排出量と水の算定ルール(2026 年 4 月 20 日)」、「GHG 排出量 算定ルール Scope3(2026 年 4 月 20 日)」並びに GHG Protocol(事業者排出量算定報告基準 改訂版)(以下、「算定ルール」という。)に準拠し、正確に測定、算出されていることについて第三者検証を行った。2025 年度とは、2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日の期間をいう。

検証の目的は、算定報告書を客観的に評価し、同社の GHG 排出量、エネルギー使用量および水使用量の算定の信頼性をより高めることにある。

2. 実施した検証の概要

当機構は、GHG 排出量については「ISO14064-3」、エネルギー使用量および水使用量については「ISAE3000」に準拠して検証を実施した。本検証業務の対象活動範囲は Scope1、2 の GHG 排出量(CO₂、CH₄、N₂O、HFCs、PFCs、SF₆、NF₃)、Scope3 の GHG 排出量(カテゴリ 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15)、エネルギー使用量および水使用量とした。なお、Scope3 のカテゴリ 8, 9, 10, 13, 14, 15 は算定から除外されていることを確認した。保証水準は「限定的保証水準」、重要性の量的判断基準値は検証対象それぞれの総量における 5%とした。また、本検証業務の対象組織範囲は VAIO 株式会社とした。

検証では、現地検証に先立って、算定ルール等の確認のために統括機能の検証を実施した。その後、Scope1、2、水使用量に関する検証では、安曇野本社における現地検証を実施した。現地検証では、算定対象範囲、排出源、モニタリングポイント、水使用状況、算定・集計体制の確認、活動量および排出量データについては根拠資料との突き合わせを行った。Scope3 に関する検証では、算定ルールの確認、算定対象範囲の確認、算定シナリオとアロケーションの確認、算定・集計体制の確認、排出量データについては根拠資料との突き合わせを行った。

3. 検証の結論

検証の対象とした、算定報告書の GHG 排出量、エネルギー使用量および水使用量において、算定ルールに準拠せず、正確に算定されていない事項は発見されなかった。

4. 留意事項

算定報告書の作成責任は VAIO 株式会社にあり、GHG 排出量、エネルギー使用量および水使用量の検証の結論に関する責任は当機構にある。VAIO 株式会社と当機構との間には、特定の利害関係はない。

東京都千代田区神田須田町一丁目 25 番地

一般財団法人日本品質保証機構

常務理事 浅田 純男

